

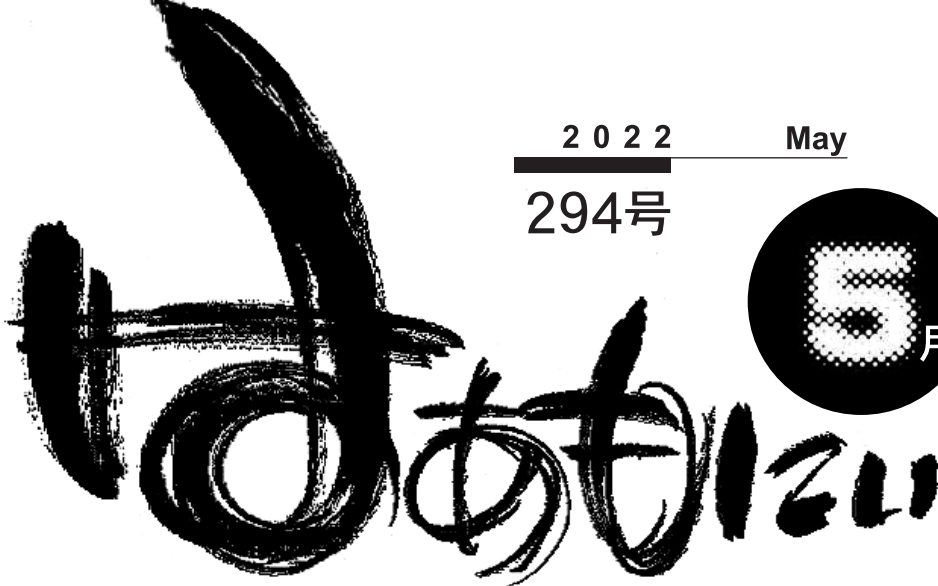
2022

May

294号



月



●医療法人創和会広報誌はあもにい / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和4年5月1日発行

「創I計画」再び —新型コロナと戦った先に見える未来— SHIGEI PROJECT 2022 Change & Challenge 変革と挑戦の3年間に向けて



しげい病院 院長 有元 克彦

私が院長に就任したのが2019年4月。その年の瀬に中国武漢で発生した新型コロナが瞬く間に世界中を席卷し、新型コロナとの戦いに明け暮れた2020年からの2年間でした。新院長として病院の基本方針の一つに掲げた「新しい課題の発見につとめ常に変化を求めていく」はしばらく封印せざるを得ず、新型コロナの対応に病院をあげて取り組むことになりました。

岡山県と岡山県医師会透析医部会の要請を受けてCOVID-19透析患者専用の病床を3階北エリアにオープン、病院玄関南側にプレハブを設置し発熱外来を運用、院内でPCR検査が出来る体制の整備など、新型コロナに背中を見せず真正面から対峙しました。3月に岡山で開催された第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会特別企画3「岡山県の透析COVID-19対応報告」で報告しましたが、これまでに県内で発生したCOVID-19透析患者132人中32人(24.2%)をしげい病院で受け入れました。第4波の極期には4人もの患者さんが相次いで死亡退院となり、関係するスタッフに非常な苦労を強いることになりましたが、皆さんのがんばりで岡山県のCOVID-19透析患者診療に多大な貢献ができました。また2月に発生し

た院内クラスターも無事に乗り切ることができました。改めて全ての職員に心から感謝と敬意を表します。

コロナを向こうに回して戦ってきたしげい病院にとって、もうコロナは怖くありません。第7波が来ようと、コロナが何年続こうと対応できる体制は整いました。変革と挑戦に取り組む機は熟しました。

1997年に重井理事長が中心となって企画しスタートした「創I計画」によって「重井病院」は大きく進化し、今の「しげい病院」になりました。四半世紀の時を経て、この4月から新たな「創I計画」として「SHIGEI PROJECT 2022 Change & Challenge 変革と挑戦」がスタートします。キャッチコピーがいささか陳腐という声も聞こえますが、内容には自信があります。

病棟再編、外来機能の充実、新規透析クリニック開設による「透析医療における地域包括ケア」推進、ウェルウォーク導入によるリハビリテーションの質向上、高梁川流域の僻地医療支援、スタッフコールの更新と高度スマホ連携、職員の制服一新、「肝・腎疾患連携推進講座」で岡山大学 高木章乃夫特任教授との3年間の共同研究など、新たな計画が目白押しです。

北京オリンピックが終わるとロシアがウクライナに侵略をしかけました。軍事力で劣るウクライナを短期間で制圧できるとのロシアのつもりは大きく崩れました。プーチン大統領の戦略に齟齬があったためもあるでしょうが、ゼレンスキー大統領の指揮下、軍事力で勝るロシアに一步も引かずに立ち向かうウクライナ人の愛国心が世界を動かして支援の輪が広がっています。誤ったナショナリズムは国を滅ぼすこともあります。今回のウクライナ侵略では改めて愛国心の大切さを感じ

させられました。危機に立った病院を救うのも同じく「しげい愛」ではないでしょうか。皆さんの心の中に「しげい愛」が育つように努めるのが院長の一番大切な役割だと思っていますが、その役割が果たしているだろうかと自問自答の日々です。

ともかくも仏作って魂入れずにならぬよう、皆さんの「しげい愛」を結集して「SHIGEI PROJECT 2022 Change & Challenge 変革と挑戦」を進めていきたいと考えています。皆さんのアイデア提案も待っています。よろしくお願いします。

第12回 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 in 岡山

3月26日（土）・27日（日）の2日間、岡山コンベンションセンターにおいて、「第12回 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会」が開催されました。本学会は2016年以来6年ぶりの岡山での開催。今回も前回大会に引き続き、重井理事長が副会長を務め、多くの職員が登壇、演題発表をする活躍をしました。コロナ禍中であつたため、“県外から多数の同志が集まる”というわけにはいきませんでした。学会参加者約1,330人、また多くの方が4月11日（月）～28日（木）のオンデマンド配信により学びを共有することができ、充実した学会となりました。

重井理事長は大会を振り返り「創和会から23演題の発表、約70人の学会参加があつたと聞いており、職員の皆さんが積極的に参画・参加してくれたことが嬉しかった。今回の大会で、コロナ禍で透析医療を守ってきた岡山の体制を全国に発信したく特別企画を提案したが、有元院長が演者のコーディネートを行い、自らもしげい病院の取り組みを発表してくれた。シンポジストの人選など、今回は有元院長が調整してくれ大変感謝している。」とのこと。

有元院長は特別企画「岡山県の透析 COVID-19 対応報告」の中で、しげい病院での透析患者の受け入れ経験を講演されています。ICUもなく、透析とリハビリを中心としたケアミックス病院の立場での受け入れの経験を、率直に報告されています。コロナ禍2年を経過し、今後の対応についての質問に対し「第7波がどうなるかは解らないが、コロナについて正しい対応をすれば恐れることはないことが解ってきた。岡山県医師会透析医部会としては、各施設でできる感染対策を進めていた



だき、岡山下透析施設全体で透析患者のコロナ診療をする体制を進めていきたい。」との発言があり、座長の川崎医科大学の佐々木教授から共感をいただいていたのが印象的でした。

今回の学会では、シンポジウムやジョイントシンポジウムで3人が演者として活躍をしました。これは、プログラムを検討する過程で「ぜひ、しげい病院の取り組みを紹介して欲しい」という依頼があり実現したものです。

シンポジウム	演者(※)	演 題
腎臓リハビリテーションと栄養療法	理学療法士 井本洋史	CKD 患者の運動療法と栄養
重複障害のリハビリテーション	医師 清水弘毅	運動機能障害と腎臓リハビリテーション
多職種で挑むフレイル予防	理学療法士 清水賢児	CKD・透析患者におけるフレイルに対する運動療法について

※所属はいずれもしげい病院

今後も、学会テーマである「腎臓リハビリテーションで well being を実現する」を日常の臨床の場で実行していきましょう。
(横山)

発表者と演題

(第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 in 岡山 2022年3月26日・27日)

	部 署	職 種	氏 名	演 題
しげい病院	看護部：血液浄化療法センター	看護師	中尾 敦子	当院透析患者の骨折事例の検討
	看護部：血液浄化療法センター	看護師	小野 由美	転倒しないからだづくりを目指して ～歩行補助具や車椅子が必要な透析患者に対する運動療法～
	臨床工学部	臨床工学技士	佐藤 和音	低周波治療器が自己血管内シャントに及ぼす効果
	臨床工学部	臨床工学技士	白神 卓哉	下肢病変を有する血液透析患者に対する積層型ダイアライザの使用経験
	リハビリテーション部	理学療法士	井本 洋史	血液透析患者のカルニチン欠乏について
	リハビリテーション部	理学療法士	前田 貴昭	当院外来維持血液透析患者に対する透析中ボール運動の効果
	リハビリテーション部	理学療法士	清水 賢児	外来血液透析患者の骨格筋量指数と身体機能の関係性について
	リハビリテーション部	言語聴覚士	小見山和也	外来血液透析患者の認知機能と身体機能の関連について
	通所・訪問リハビリテーション部	作業療法士	原 ななみ	コロナ禍の訪問リハ導入が通所リハ再開に繋がった慢性腎臓病の一症例
	栄養管理部	管理栄養士	石原 彩華	外来透析患者における多職種での取り組み
研究所附属病院	地域連携部	社会福祉士	小野 由貴	多職種連携により自宅への退院につながった透析患者の一症例
	医局	医師	荒木 俊江	重症心臓病の治療後にリハビリを行い自宅退院できた症例
	医局	医師	櫻間 教文	両側上肢 AVF、両側鎖骨下ベースメーカーリード留置後に両側鎖骨下静脈閉塞を生じた1例
	医局	医師	渡邊 真也	血液透析導入期に心房細動を発症した高齢末期腎不全患者の一例
	看護部：血液浄化療法センター	看護師	大倉奈央子	在宅血液透析患者の透析離脱危機行動から多職種チームでの関わりにより行動変容ができた事例を通して
	看護部：外来	看護師	川北 奈美	外来における糖尿病透析予防指導体制の現状と課題
	リハビリテーション部	理学療法士	菊川 智	外来透析患者に対する自主運動指導の現状と課題 ～患者満足度の向上を目指して～
	リハビリテーション部	理学療法士	大西 秀典	下腿切断後・義足適応となった透析患者に対し、包括的支援により自宅退院となった一例
	リハビリテーション部	理学療法士	石田 祥児	地域包括ケア病棟患者の退院時アンケート調査から見えてきた2040年に向けた療法士の課題
	地域連携部	社会福祉士	藤本 桃夏	精神疾患を有する透析患者の退院支援 ～「本人の想いを繋ぐ」医療ソーシャルワーカーの関わり～
重井医学研究所	分子遺伝部門	研究員	松山 誠	ゲノム編集を用いたアルポート症候群モデルラットはヒトの病態解明や治療法の探索に有用である
	細胞制御部門	研究員	古家野孝行	多発性嚢胞腎の嚢胞形成制御におけるメカノセンサー分子PKD2の役割の検討
	分子細胞生物部門	研究員	友野 靖子	マウス系統により異なる下肢筋肉の筋線維組成が筋組織維持に与える影響



▲閉会式後の記念撮影（前列）佐々木副会長・重井副会長・柏原会長・花山副会長・板野事務局長

新入職員研修を実施

～今年もたくさんの新入職員を迎えました～

■しげい病院

医療支援部 総務課 比津 守弘

4月1日（金）から4日間、新入職員研修を行いました。今年度も新型コロナウイルスの影響により日程を短縮し、感染予防策に留意しての研修となりました。一部研修には昨年度入職の中途職員も参加しました。

研修で習った知識や手技等は、実践することで体に身に付き自然とできるようになります。当然、その中で成功することも失敗することもあります。分からないことがあればいつでも、頼れる先輩や上司が優しく教えてくれるので、一人で抱え込ま

ず、すぐに「報告・連絡・相談」をしてください。わからないことを減らすことで徐々に自信へと繋がりますので少しずつ自分ができることを増やしていくことが大事だと思います。

コロナ禍において学生時代を過ごした皆さんは、オンライン授業へ変更や臨地実習が十分できなかった状態で入職し不安やとまどいもあると思いますが、できることを増やしつつ自分のペースで頑張っていきましょう。



▲入職式



▲新入職員代表の挨拶



▲患者体験



▲指さし呼称



▲感染対策の研修



▲院内見学

■ 研究所附属病院

事務部 総務課 課長補佐 小原 哲夫

4月1日（金）今年も新入職員総勢26名が入職しました。

入職式後はすぐに新入職員研修です。コロナ禍で行われる3度目の新入職員研修ですが、昨年までと異なり自粛していた院外施設見学を再開し、延べ5日間のプログラムを実施しました。

研修後のレポートでは、職種の垣根を越えて同期入職の仲間が揃って受けるこの研修を通じて、「創和会、研究所附属病院の理念などを知ることによって入職できたことへの喜びや、私はとても良

い職場の一員になれたという思いになりました。」、「研修で学んだことを忘れず、一日も早く仕事に慣れ活躍したいです!」、「不安な気持ちで来院された患者さんに寄り添い、患者さんの立場に立って物事を考え、仕事ができる職員になりたい。」など、初々しくも頼もしいコメントの記述がありました。

この研修を土台として、将来の創和会を益々発展させる原動力となる職員に成長することを大いに期待します。



▲辞令交付



▲新入職員代表の挨拶



▲AED



▲車いすの移乗



▲認知症サポート研修

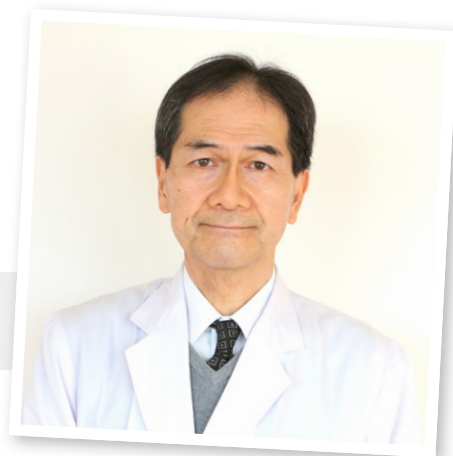


▲消火訓練

この人紹介 !!

～私の履歴書～

4月から、研究所附属病院でお世話になっております内科の丸川と申します。自己紹介を兼ねて経歴を書かせていただきます。



生い立ち

1956年11月に岡山市西古松（大元駅の近く）で生を受けました。大学卒業まで地元で、高校は岡山朝日で高2の時には現しげい病院院長の有元先生と同じクラスでした。大学は岡山大学でしたが、出席番号が隣であった当院院長の真鍋先生と楽しく学生生活を過ごすことができました。写真は、40年以上前の大学時代の懐かしい写真です。



卒業と研修、学位取得

1982年3月に大学を卒業後、岡山大学の第二内科へ入局しました。少し地元を離れ笠岡市立市民病院、神戸市立西市民病院で初期研修を積んだのち、大学に戻り学位のため研究生生活に入りました。内容はマウスの単クローン抗体を使った肺癌の腫瘍マーカーの研究でした。基礎研究との相性はともかくとして、考え方はその後の臨床研究を行う上で役に立ったように思います。

呼吸器内科専門医として

呼吸器内科の専門医としてこれまで気管支鏡1万例、看取り1000例以上、剖検100例ほどを行ってきましたが、全身疾患としての呼吸器学に目覚めたのは卒後2年目で神戸の西市民病院（長田区）で気管支鏡の手ほどきを受けた故渡辺洋一先生（岡山日赤の元副院長）の存在が大きかったように思います。6歳年上でしたが、情熱の人、努力の人であり、構想力の大きさに心酔しておりました。キャリアの中では呉共済病院、福山医療センターなどで呼吸器診療にどっぷりとはまっておりましたが、その中でアスベスト（石綿）と悪性中皮腫の関連で新しい腫瘍マーカーの発見もあり、学会

での情報発信にも力を入れてきました。

終末期医療と臨床研究

5大呼吸器疾患は急性肺炎（抗酸菌感染を含む）、肺癌、気管支喘息、間質性肺炎、COPDになりますが、40年間の診療の中で自分が看取ってきた患者さんの多くは肺癌であり、がん診療に携わる中で、ヒトの生死について深く考えるようになり自らの人生観にも大いに影響を受けたように思います。また診療・教育では多くの研修医の先生方とEBMを実践しておりましたが、現場ではエビデンスがないものにも決断をせざるを得ない状況が多々ありました。このため福山医療センターでは臨床研究部長として臨床疑問に基づく研究を行い、成果について国内外で発表、一部は論文文化を行ってきました。写真は、2018年のアジア太平洋呼吸器病学会（APSR）で台湾の学会場での写真です。



前任地と COVID-19

研究所附属病院にお世話になる前は、香川県丸亀市にある香川労災病院で2015年から7年間副院長をしておりました。内科部長を兼務しており、肺癌、呼吸不全の診療に明け暮れておりました。最後の2年間は更にCOVID-19診療の最前線にあり、行政と連携しながらトリアージの役目と中等症以上の症例の治療をこなしてきましたが、正直大変でした。

家族と趣味、現在の心境

私は4人家族で、近くの妹尾に住んでおります。研究所附属病院では、私を含め家族のほとんどが

診察を受けことがあります。また、リウマチを抱えた母も87歳になりますが、私が生を受けたところで今も頑張ってくれています。

趣味はウォーキング、読書、英会話そして国際学会をかねた海外旅行です。写真は、2015年マレーシア（クアラルンプール）でのAPSRで訪れたペトロナスツインタワーの最上階での写真です。もう1枚の写真は、2019年欧州呼吸器病学会（ERS）でスペイン（マドリード）を訪れた際にパブロ・ピカソの反戦の絵画（ゲルニカ）を見に行った時のものでソフィ



ア王妃芸術センターの出入り口で撮影したものです。

最後に、皆さんと同じく2年以上にわたり病院と自宅の往復の楽しみ状態が続

いております。早くコロナが収束し、侵略戦争のない平和な世の中に戻り、年齢相応に穏やかな生活を送りたいと願っております。さらに国際学会を通して世界中の方々と出会い、ウイットに富んだ会話を楽しむことができる日が再び来ることを期待しておりますが、まずはしっかりと当院での役割（総合診療、一般内科そして新たに呼吸器内科担当としての）を果たしてまいりたいと考えております。

どうぞ宜しくお願いいたします。



放射線装置（X線・TV）を更新しました

しげい病院 放射線部 主任 藤井 裕三

X線装置：3月11日（金）～14日（月）、TV装置：3月18日（金）～24日（木）の日程で放射線装置を更新しました。

新X線装置では寝台位置の変更や移動レールの延長による可動範囲の拡大、回転固定機能による正確な角度調整により、以前よりも患者負担が少なく撮影を行えます。



▲新しい放射線装置

新TV装置には従来の機能に加え、簡易DSA（造影剤を使用し、差分により血管を見えやすくする機能）が搭載されており、別室の血管撮影装置不調の際バックアップとして使用することもできます。さらに照射野ランプのLED化・寝台昇降機能等細かなところもグレードアップされ、利便性が向上しました。

進化した装置を十分に活用し、安全・正確・迅速な検査につなげていきたいと思います。

最後に、装置導入に際しご指導いただいた



▲装置入れ替えの様子

森本副院長、熊代医師、小畑医師、搬入・接続にご協力いただいた総務課、IT推進・情報管理室の皆さん、ありがとうございました。

2022 年度 はあもにい編集委員

今年はこのメンバーで頑張ります。よろしくお願いします！！



しげい病院

リハビリテーション部
地域連携部
IT 推進・情報管理室

舛本 昂哉
岡本 牧子
松田 圭市



研究所附属病院・重井医学研究所

事務部
事務部
分子遺伝部門

井上 有紀
栗原 玲音
北村 真優美

確し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「青嵐の里山を楽しむ」

日時：5月22日（日）
10：00～12：00

会場：重井薬用植物園



編集後記

●今日の職員食堂のメニューはカレーでした。のぞみ弁当のカレーはおいしいですね。食堂に入り、チキンカレーと書かれた札を横目に列に並びます。自分の番になり、食うコメの量を聞かれました。皿に盛り付けてあるコメの量はすでに大盛に見えたのですが、大盛にしますか？と聞かれました。つまり、選択肢としては大盛か、超大盛しかないわけです。普通（大盛）を選択しました。最近はおお客様の健康のためにカロリーカット、持ちやすくなって新登場の商品が多いですね。先日も定期購入しているアイスコーヒのボトルが突然持ちやすくなっていてびっくりしたばかりです。お前そんなにスリムだったっけ？客のために普通（大盛）っていいですね。（MK）

●今年度もはあもにい編集委員として活動させてもらうことになりました。何年目になるかなと今までののはあもにいを見返すと、今年度で4年目に突入するそうです。はあもにい編集委員1年目の集合写真ではマスク姿ではなかったのですが、昨年度からマスク着用での撮影。様々な行事もなくなり、仕事だけでなくプライベートでも変化が大きくあり、あっという間の3年間でした。今年の目標はダイエット。写真を見返したことで改めて決意しました。まずは職員健診に向けて健康的に痩せていこうと思います。今年度も読みごたえのある広報誌を目指して努力していきますので、よろしくお願いいたします。（KM）



医療法人 朝和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207